

魚や海藻が主原料の有機肥料を導入

土壌改良に力

酒田市 株式会社はなはな

花き、野菜、果樹の多角経営

立枯病を解消 比較実験で収量増

同社が手掛けるトルコギキョウ栽培では、立枯病の原因となるフザリウム菌の抑制が課題の一つとなっていた。この菌が土壌に発生すると灌水チューブから流れる水を通して感染し、花

が枯死してしまう。阿部さんは知人にこの有機肥料を紹介された。収穫力は、フィリートのバナナ栽培で、バナナ病を引き起こすフザリウム菌に対して施用効果が期待できると聞き、同社でも試すことにしたという。



広大な圃場でカララを栽培する阿部さん

種力は、特殊な有効バクテリアや酵素が分解して作られている。希釈して土壌に散布すると有効菌が活着し、菌が病変になりつら健康な土になり、生育が影響をもたらずとされている。トルコギキョウで実験したところ、フザリウム菌の発生を抑制し、高収量生産につながった。

また野菜栽培でも、今年4月から7月にかけてミニトマトのハウス4棟(約4町)で異なる肥料を使った比較実験を行った。

その結果、収穫力を使った作物は揚勢が良く、生育や果実が多く付き、収穫量は慣行の減肥を使った場合に比べ1.4から1.6倍増加した。1町当たり収量が今までの3分の1ほどで済むので、労力と資材コストを軽減でき

やまがた



山形県農心
NOSA I 山形
〒994-8511
天童市小関1333番地
☎023-656-8988
http://www.yynosa.or.jp/

各地の話題・情報をお寄せください。上記の連絡先までお願いたします。

花一

金子 実

【酒田市】酒田市阿部野田の株式会社はなはな(社員13人、代表取締役・阿部浩之さん43歳)は、同市堀地区の圃場約23町で花き(トルネドロマリア、カラ、トルコギキョウなど)、野菜(ミニトマトなど)を栽培し、果樹の生産に取り組んでいる。同社では、トルコギキョウとミニトマトの栽培に、農業生産工程管理の国際基準「GLOBALG.A.P.(グローバルギアット)」取得企業が開発した有機肥料「収穫力」を使った実験を行い、大きな成果を挙げた。



収穫力を使用した栽培したミニトマト。高収量となっていた。

ると、土が軟らかく根張りが良くなったと話す阿部さん。「生育レイドが速く収穫量も多かったのですが、農業経営にとって大きなプラス材料」と手応えを感じている。

「農林水産省が策定した『21世紀の食料システム戦略』では、化学肥料の削減

や有機農業の拡大が目標として掲げられている。有機肥料を使うことで土壌汚染を防ぎながら収穫を自給したい」と希望。

持続可能な農業を志す阿部さんは、来年から全ての作物に収穫力を使用し、各品目の安定生産につながりたい考えだ。

果樹の凍霜害対策

農家仲間と

オイルヒーター復活へ 燃焼実験などメーカーと協力

南陽市 高橋 善一さん



【南陽市】南陽市高橋でん(69)は、果樹の凍霜害対策として、50年ほど